優秀賞

マンナンソ、パンガスミニダ

東京都 跡見学園中学校二年 尾張

ものである。父と母のデー母が日本語を話せるのは、 たという。 を連れて通訳をしてもら とんど日本語を話すことができなかったという。今日は日本に留学中に父と出会った。その時母はほ 11 いながらのカフェ通いだっートは、もっぱら父が友人、ひとえに母の努力のたま · ;

「えへ、 話した。 て言う。ソウルに居る祖父母とは何も話さないのか ので不便はしない」と答えると、ふんぜんとし 家族に先生がいるのに、とうらやましそうな顔をし 聞くので、「母や少し韓国語が分かる姉が一緒な 休み、母の里帰りについて、ソウルに行くことを私の通っている塾に韓国好きの国語の先生がいる。 へ、できません」と言うと、もったいなた。先生に、「韓国語話せるの?」と聞か 理解できたらその国の文化も理解できるの 「『言語は文化の所産である』というのよ。 いないな、 た面

> 気恥ず と覆い いとは と言う に」と言う。 いつも思うのだけど、母に教えてもらうのは、被せるように言う。祖父母と直接話してみた かしくてできない。いつも思うのだけど、 と「お母さんに少し教えてもらいなさいよ」 しくてできない。 今年の母の帰省についてい くつもりだ

「じゃあ、先生としよう。」

母に出会って最初の言葉を勝手に先生が想定しびっくりして先生を見るとやる気満々風だ。 韓国語の会話の授業である。 が想定した。

ベ風だ。祖父

葉を覚えた。 マンナンソ、パンガスミニダって言うのよ」。 る言葉から始めた。それで次は、「会えて 「こんにちは、アニョハセヨ」。 ラマじこみの先生の韓国語である。 さすが その二つの 知 韓国 っ 言 いて

老けてなかった。 四日、 祖父はいつも通りだっよいよ祖父母に会う。 つも通りだった。そこで「父母に会う。祖母は全然

と言うと、二人はパッと顔をあげて何か言った。「マンナンソ、パンガスミニダ。」 ても嬉しそうだった。 2

を食べた。ヤンニョムチキンだった。祖父母の家についたのは十時頃だったのでお夜食

「チャイモ ッケスミニダ(い ただきます)。」

「チャイモッゴスミダ(ごちそうさま)。」な事だけは伝わってきた。食べ終わって、てまた何かを言った。分からなかったけど嬉しそうと言って食べようとしたら祖母が、目に涙を浮かべ と笑った。韓国人の祖父母と意思が通じた。二人のと言ったらいつもむっつりしている祖父が、ニコッ 心を開いた。

父母は満面の笑みで手が千切れるほど手を振ってくけれど、来年は自分から来ようと考えた。空港で祖 今までは連れてこられるだけの韓国、 言葉は心と心を繋げるものだと初めて認識 ソウルだった した。

